

シビルNPOの「連携と協働」を支援する裏方として

サービス提供部門担当 常務理事 有岡正樹

- 平成19年8月土木学会「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会」の中に「建設系NPO法人調査研究ワーキンググループ」を設立、調査・研究活動開始
- 平成22年11月土木学会理事会に中間支援組織の設立を提言
- 平成24年4月建設系NPO中間支援組織設立の具体化のために、活動中NPO法人延40法人による「連絡協議会」を設立し、事業の具体化と主要業務の試行・検討を経て、発起人会を設立。
- 平成26年4月建設系NPO中間支援組織として、任意団体「シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP)」を設立し、同年8月NPO法人認証を取得、本格的活動を開始。

冒頭にこんな年表的な書き出しをして恐縮ですが、NPO法人CNCPがこの8月に設立されるまでにちょうど7年を費やしたことになります。この歳月の長さは、シビルNPO法人そのものの、またそれらの法人活動を支援する中間組織の、活動の難しさを如実に表すものであったといえます。

そして7年もかけて、“これならその役割が果たせる”の確信が得られたわけではなく、“これ以上は走りながら考えよう”というのが本音です。連絡協議会での議論では、サービス提供内容として33の具体的項目が俎上に上りましたが、立ち上がり時の工程表では活動支援、情報交流、広報・提言および教育・行事の4分野、8項目に絞りこみました。

本CNCP通信第2号で「事業化推進部門」、第3号では「地域活動推進部門」についてそれぞれその役割が紹介されていますが、「サービス提供部門」は事務局共々、シビルNPOの中間支援組織としてのキーワードである「連携と協働」を支援する裏方として助走段階から、例えば、会員のデータベース化とその活用方法の具体化、ホームページの立ち上げ、広報誌CNCP通信の発行など、具体的な活動に積極的に関与しています。

この原稿を書いている7月27日付日経新聞朝刊34面に、「ものづくりの街、復活へ輪」と題しての記事がありました。“米サンフランシスコ市のものでづくりが復活の兆しを見せている。旗振り役は地元の製造業者が立ち上げた非営利団体。500社を超える企業が、経営のノウハウや販売網の拡大に向けて連携する”と続きます。その団体の設立は2010年で、当初会員は12社だったのがわずか4年程度で540社以上が参加する組織になったようです。会員が会員を呼んでということなのでしょうが、そのスピードには驚くばかりです。

自由競争が至上の国アメリカらしいドライな「連携・協働」の話なのでしょうが、“非営利組織が、関連する組織や企業をネットワーク化して地域や事業分野の活性化を図る”という意味でCNCPとは共通点があります。500社を超える企業を「100を超えるシビルNPO法人」に、旗振り役の非営利団体SFMadeを「CNCP」に置き換えて、奮起していこうと考えています。

様々なご意見や、会員増強のご支援をお待ちしております。arioka1010@gmail.com 有岡までご連絡ください。